

**TOPiK** 総長就任のお知らせ

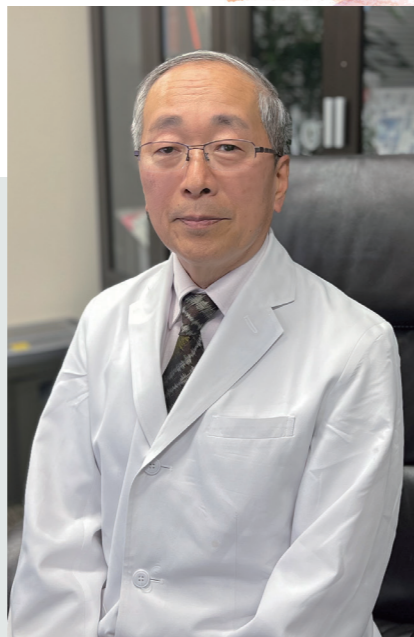
令和6年4月1日付で関本貢嗣総長が就任いたしました。

略歴

- 昭和56年3月 大阪大学医学部卒業
- 昭和56年7月 大阪大学医学部第二外科 研修医
- 平成7年5月 大阪大学医学部第二外科 助手
- 平成11年11月 大阪大学大学院医学系研究科 病態制御外科 講師
- 平成16年9月 大阪大学大学院医学系研究科 病態制御外科 助教授
- 平成24年7月 国立病院機構大阪医療センター がんセンターがん診療部長兼外科科長
- 平成28年4月 同センター副院長兼医療安全管理部長
- 平成31年4月 関西医科大学外科学講座主任教授
- 令和6年4月より 箕面市立病院 総長就任

専門医など資格

- 日本外科学会専門医、指導医
- 日本消化器外科学会専門医、指導医
- 日本大腸肛門病学会専門医、指導医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医



せきもと みつく  
関本 貢嗣

- ・1956年大阪生まれ
- ・がんの克服をめざして常に先進医療の先頭に立つ。
- ・患者さんには情報をしっかりお伝えすることを大切に、その気持ちを汲み取ることも最大限の注力をしている。
- ・趣味は「ゴルフ」と「歩く」こと。住まいは豊中だが、今後は箕面も敢案してみたい。

今年も  
実施します！

令和6年度の市民医療講座

当院の各診療科の専門医をはじめとする医療スタッフが、診療内容や最新の情報をお伝えすることを目的として、市民医療講座を毎年5～6回程度開催します。

テーマ：「がんとの共生をめざして」

日時：令和6年(2024年)5月18日(土)  
14:00～16:00(1部～4部)

場所：箕面船場生涯学習センター 6階 多目的室  
(箕面市船場東3-10-1)

- 講師：1部 病院長 岡 義雄(医師)  
2部 産婦人科医師 小川 美祈(医師)  
3部 地域医療室 中本 浩平(医療ソーシャルワーカー)  
4部 資生堂美容戦略部 瀬村 留美さん  
がん化学療法認定看護師 生田 成美(副看護師長)



「今後の予定」

- ・泌尿器科：泌尿器科ロボット手術の最前線 6月29日(土)
- ・糖尿病・内分泌代謝内科：糖尿病の最新情報
- ・整形外科：人工関節手術支援ロボット「Mako」
- ・緩和ケアチーム：がんにつまわる相談
- ・血液内科：血液のがん
- ・小児科：発熱、川崎病

※講演内容、テーマは変更することがあります。

市民医療講座について、詳しくは当院ホームページをごらんください。



TOPiK

北大阪急行「箕面船場阪大前駅」が  
2024年3月23日(土)開業！  
箕面市立病院へのアクセスに

箕面市立病院へは徒歩10分(約650m)となります。



# 箕面市立病院だより



2024.5. No.43

特集

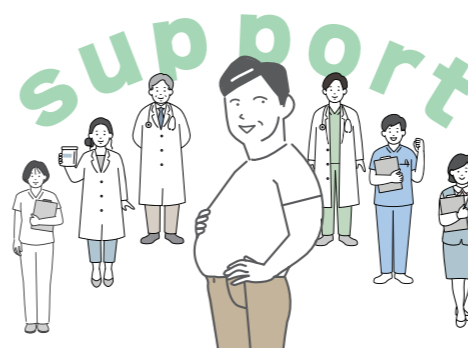
糖尿病センター

糖尿病の合併症を予防しよう！



療養生活を糖尿病チームでサポートします

箕面市立病院の糖尿病センターでは、医師・看護師をはじめ、さまざまな職種の職員が専門性を活かして連携し、糖尿病患者さんの療養意欲を高め、健康な生活を維持できるようにチーム一丸となって日々サポートしています。



TOPICS

リブレPro外来を行っています！

血糖値は1日の中でも変動しており、空腹時血糖やHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)が良好な数値でも、食後に著しく血糖値が上昇していたり、就寝中に血糖値が下がりにすぎず低血糖になっていたりするケースがみられます。

FreeStyleリブレProという500円玉大のセンサーを腕に装着するだけで、24時間・14日間の血糖変動を自動で確認できます。この装置でこれまでの血糖測定ではわからなかった1日の血糖値の動きを知ることにより、より良い血糖コントロールの実現に近づけていくことができます。患者さん自身の操作は不要で、装着中も入浴・運動など含めて通常の日常生活を送ることができます。

リブレPro外来を受診希望の場合は、かかりつけ医にご相談いただき、紹介状を作成してもらってください。



※1～2ヶ月の血糖値の平均を表す数値

Check!

こちらをご覧ください。「箕面市立病院HP」





## センター長からのメッセージ



森 由希子

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本糖尿病学会
- 日本内分泌学会

箕面市立病院は地域の糖尿病患者さんに信頼される糖尿病療養支援をめざし、2009年に糖尿病センターを開設しました。

糖尿病センターは、血糖値を良好に維持することだけでなく、循環器内科・皮膚科・整形外科・形成外科などとも連携して糖尿病の慢性合併症の予防と治療も行っています。

当センターでは、患者さん中心の医療を実現するために糖尿病専門医だけでなく糖尿病療養指導士の資格を有する看護師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師が、患者さんのさまざまな情報を共有してチーム全体で療養支援の質の向上に努めています。

## 糖尿病の症状と合併症

糖尿病とは、血液中の糖の濃度が増えてしまう状態を言います。通常、血液中の糖の濃度は、インスリンと言われるすい臓から分泌されるホルモンによって細胞に糖を取り込むことでコントロールされています。

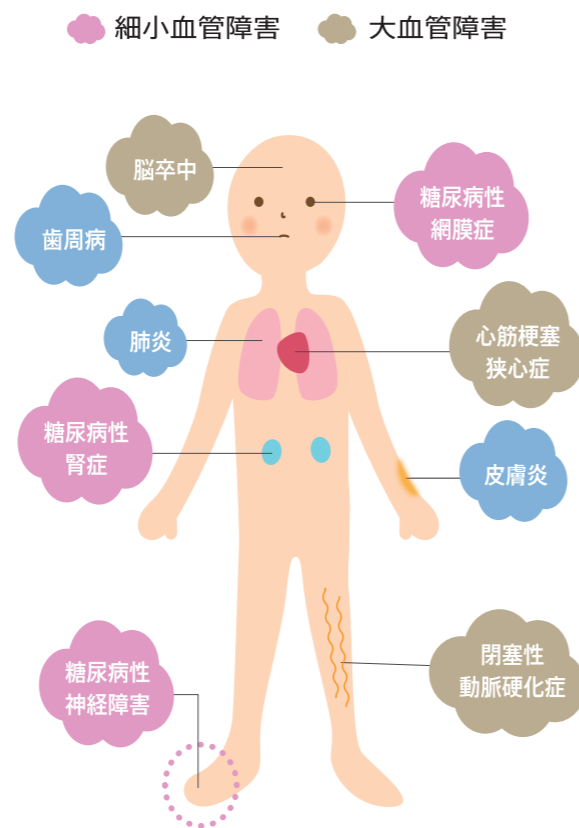
何らかの原因によって、このインスリンが分泌されないまたは分泌量が不足するか、もしくはインスリンが出ていてもそれを上回る糖分が入ってくる場合は血糖が高い状態になります。

血糖値が高くても、最初のうちはほとんど症状を感じることはないのですが、高い状態を放置することによって、次第に全身の血管や神経が傷ついて全身のさまざまな臓器に障害をきたしていきます。

糖尿病は自覚症状がなくても、見えないところで合併症が進行しています。そして、気がついた時には合併症のため、日常生活に支障があらわれているということが少なくありません。

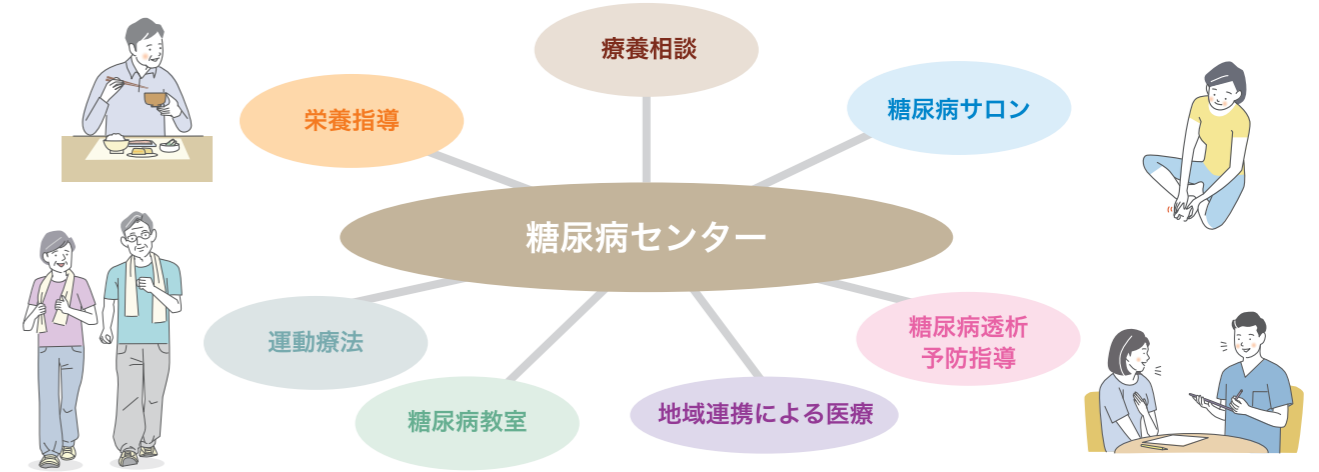
合併症である心臓病、腎臓病、脳卒中など、直接死亡リスクに関係する病気を引き起こすこともわかってきました。しかし、きちんと血糖値をコントロールできれば、合併症を予防できることもわかっています。

そのためにも、しっかり治療を行い、適切に血糖値を下げる必要があります。



血中の糖分が血管を傷つけたり、血管を詰まらせると動脈硬化が起こります。血管は体の中のあらゆる箇所に繋がっているため、さまざまな病気の原因となります。

## チーム一丸で糖尿病患者さんのサポートをしています！



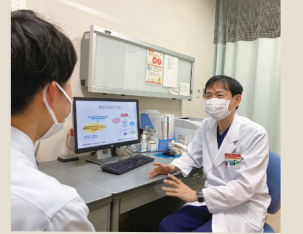
### 1 管理栄養士による栄養指導

患者さんに寄り添いながら、個々の生活に実際に取り入れることができる食事内容を提案しています。また栄養指導室では、食品サンプルを使用し、具体的な量や内容について説明します。



### 4 医師・管理栄養士・外来看護師による、糖尿病透析予防指導

糖尿病の合併症の1つである、高血糖状態が長く続くことによって腎機能が低下した状態になる糖尿病性腎症を合併した患者さんに、腎臓の働きを悪化させないためのポイントを説明して、人工透析の進行を予防します。  
※現在透析を受けていない糖尿病性腎症2期～4期の患者さんが対象です。



### 2 看護師による療養相談

インスリンの導入および自己血糖測定指導や、インスリン療法中でも血糖コントロールに困っておられる患者さんのお話を伺い、運動療法など、普段の生活の中で無理なく実行できる療養習慣を患者さんと一緒に考えます。また、糖尿病合併症はどういうものか、どうやって予防するか、わかりやすく説明します。



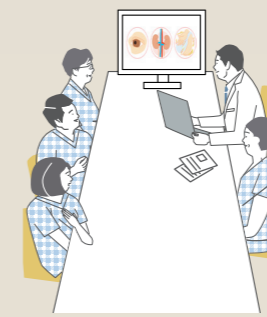
### 5 地域連携による医療

かかりつけ医と連携して、定期的な検査と診察をおこないます。血糖コントロール改善、インスリン導入のための入院を、8～13日の期間で受け入れています。



### 3 医師・看護師・管理栄養士による糖尿病サロン

月曜日から金曜日まで、入院患者さんに医師や看護師、栄養士が日替わりで糖尿病に関する知識の習得や療養に役立つ説明を行います。また、毎週木曜日には、医師と看護師をはじめとした糖尿病療養指導士が回診を行い、療養計画を立案し、退院後の自己管理が行えるよう支援しています。



### 6 糖尿病教室の開催

1年に3回(2・8・11月予定)、2日間で糖尿病の基本知識、合併症、治療などの講義を行います。特に11月は世界糖尿病デーとあわせて行っています。



### 7 理学療法士による運動療法

理学療法士指導のもと、積極的に運動療法を入院中の患者さんに取り入れ、退院後に向けた運動指導も行っていきます。

